

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和5年(2023年)

12-1月号

(通巻 209号)

2023年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ヤセウツボ

光合成をしない植物としては、最も
身近です。江戸川堤防に多く、アカ
ツメクサに寄生しているようです。

P1 ☀️ いきもの写真館
ヤセウツボ

P2 / 3 ☀️ 外来生物に関して-5
市川市域の外来植物

P4 ☀️ センサーカメラとっておきをご紹介
トラツグミ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち
ルリビタキ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
空き地のエノコログサ

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
ピンク色のクビキリギス

P7 ☀️ わたしの観察ノート
9～10月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



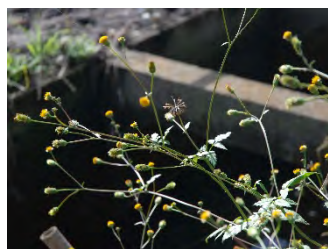
市川市域の外来植物

市川市域には、多くの外来植物が生育しています。都市化が進んで在来植物の自生地が改変され、あるいは失われ、後から入り込んだ外来植物が優勢になっています。市内で見られる外来植物をいくつか取り上げ、それらが生えていることの影響や考え方について紹介します。

ナガミヒナゲシ、ユウゲシヨウ

古くからある帰化植物を除けば、日々の暮らしのなかでもっとも普通に見られる外来植物です。広がる力が強いだけでなく、見た目にきれいなので、生えていても抜かれずに残される場合も多いようです。

ほかに身近なものとしてコセンダングサもあります。秋の開花を前に草刈りされるため、あまりなじみがないかもしれません。花も地味です。庭や学校で草むしりをする人は、ウラジロチチコグサに手を焼いていると思います。ヘラ型の葉が地面に張り付くように丸く広がり、裏が真っ白な植物です。放置すればあっという間に埋め尽くされてしまいます。

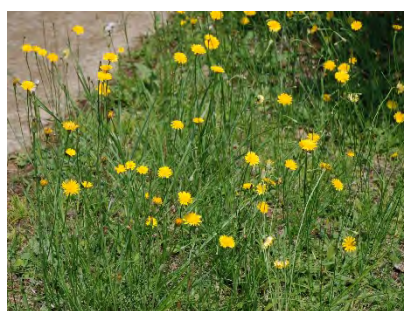


上左：ナガミヒナゲシ
上右：ユウゲシヨウ
下左：コセンダングサ
下右：ウラジロチチコグサ(葉裏)

ブタナ、メリケンカルカヤ

草原的な環境を好む外来植物です。霊園の土手のように、定期的に草刈りされて日当たりがいい場所に群生します。ですが市川市域では、ブタナやメリケンカルカヤが生えられる草原環境はほぼ残っていません。そしてそこは、本来、スミレ類やオトギリソウ、オミナエシ、ワレモコウ、ススキなどが生える環境でもあります。

外来植物が生えている状態を悪として敵視するよりも、ブタナが生えられる環境が残っているのであれば、そこは将来、スミレやオミナエシが戻ってくる可能性もある、と考えた方が、都市化が進んだ市川市域ではふさわしいかもしれません。



上：ブタナ 下：メリケンカルカヤ

キシノウブ、クレソン(オランダガラシ)

いずれも水辺に生える外来植物です。キシノウブはアヤメのなかまで、花色が鮮やかな黄色です。じゅん菜池緑地では、まるで意図して植えたかのように水辺を彩り、長田谷津でも5月の湿地の見どころになっています。きれいだからそれでいいじゃないか、という考え方もありますが、キシノウブは地下茎でぐんぐん増え、湿地や水辺を覆いつくしてしまいます。そのことで、小型の在来植物が生きるチャンスを失っています。また、網の目のように広がる地下茎が土砂を止め、湿地の陸地化を加速してしまいます。

クレソンは、食品として売られているものと同じです。まとまって生えている場所では山菜としてすぐに持ち去られてしまいますが、採集禁止の長田谷津では多く見られます。冬に繁茂し初夏に枯れるため、冬は水中の小さな生き物のよりどころとなり、初夏は他の植物の繁茂を抑え、枯れたあとが貴重な開放水面になります。外来植物でありながら、長田谷津の生態系の大切な要素のひとつになっています。



上:キシノウブ

下:クレソンの枯れた跡

シュロ、モウソウチク

シュロはヤシの木のような木です。モウソウチクはいわゆる竹林のタケです。どちらも古い時代に植えられ、農家にとっての有用木として大切にされてきました。シュロの幹の毛をなつてシュロ縄をつくり、モウソウチクはタケノコはもちろん、いろいろな物を作る材料として重宝されました。ですが、大きくなったシュロが実をつけ、それを野鳥が食べてあちこちに種子を運び、いまではどこの緑地にもシュロが生えています。モウソウチクは有用性が失われてしまったため伐られなくなり、隣接する林を飲み込むように広がっています。

シュロを増やしたのは野鳥です。モウソウチクも自力で増えています。その意味では古い帰化植物として受け入れるべきなのかもしれませんが、葉が光を遮ることの影響が大きすぎます。長田谷津ではシュロとモウソウチクや、アオキなどの常緑樹を伐って林内を明るくし、在来植物であるイヌショウマやトリカブトの一種などの復元に取り組んでいます。



上:シュロ

下:モウソウチク



センサーカメラ とっておきをご紹介

自然博物館では、長田谷津(大町公園自然観察園)の斜面林内にセンサーカメラ(自動撮影装置)を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



トラツグミ

画面の右側にいて、右を向いています。センサーカメラの動画を再生しても、じっとしていると、最初は何が写っているのかわからないことがあります。それくらい、落ち葉が積もった林内では保護色が機能しています。体を上下にゆするダンスは、センサーカメラの前でも見せてくれます。地中のミミズ(餌)などに何らかの作用があると言われていています。また、翼を小さく震わせて音を発しているように見える動画もあります。こちらについては、詳細はまだ不明です。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一推しのとりたちをエピソードと共に紹介します。

ルリビタキ

ルリビタキはユーラシア大陸から東アジアにかけて分布するヒタキの仲間です。日本では標高の高い場所で繁殖し、冬は低山から平地にかけて越冬します。越冬している個体の中には国外から飛来しているものもいるかもしれません。長田谷津では11月初旬から3月初旬にかけて見ることができます。毎年3~5個体ほどが越冬しており、冬の名物になっています。

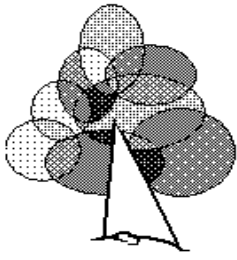


ルリビタキのオス
(2012年2月2日 長田谷津)

ルリビタキのおかげで見ることができたオオコノハズク

2021年12月12日の出来事です。鳥類のカウント調査をしていると、激しく鳴きながら、興奮した様子で動き回るルリビタキを見つけました。こういった場合、長田谷津ではルリビタキ同士の争いの事が多いのですが、今回は様子が違います。すぐに、別のルリビタキとシロハラも現れ、同じように騒ぎ立て始めました。これは何かいるな…と思い観察を続けると、近くのスギの根元あたりから茶色の鳥が飛び出し、すぐそばの枝に止まりました。双眼鏡で覗くとなんとオオコノハズクです。撮影しようとカメラを取り出そうとしましたが、ルリビタキとシロハラに執拗に威嚇され、すぐに斜面林の奥に飛び去ってしまいました。オオコノハズクは小鳥からすると、恐ろしい天敵です。オオコノハズクを見つけたルリビタキが、追い払おうと騒ぎ立てていたようです。

オオコノハズクは長田谷津では長年記録のなかった鳥で、この出来事の2週間ほど前に、斜面林に仕掛けたセンサーカメラで撮影されたのが初記録でした。それから探してはいたのですが、昼間に休んでいる姿を見つけるのは非常に難しく、見ることができるとは思ってもいませんでした。ルリビタキが騒いでいなければ、まず見つからなかったと思います。ルリビタキに感謝ですね。



空き地のエノコログサ

8月の始めに、近所の空き家が解体されました。タヌキが子育てをしていた家です。家主や業者が出入りしたときには、タヌキはいなかったそうです。

家財を運び出すのに時間がかかった割に、木造二階建ての取り壊しは、あっけなく終わりました。土がならされ、広い空き地ができました。

しばらくすると、草が生い茂りトンボが飛んでいました。ほとんどが、エノコログサです。道路のアスファルトの際に、アメリカイヌホウズキやカタバミの仲間やカヤツリグサがあります。自然博の方に話すと「イネ科が一面に生えるのは、他でも見られます。次にヨモギの仲間が

生え…。アリの巣が壊されたからかもしれません」と。

重機で、土をさらったり、ならして、アリが蓄えていたエノコログサの種を一緒にまき散らしたので、敷地いっばいに生えたのかもしれません。

秋になり、他の場所の草が、枯れ始めました。空き地のエノコログサはまだ青々していました。発芽が遅かった分、元気なのかもしれません。11月25日と26日は、10℃以下になりました。空き地のアメリカイヌホウズキは、葉が黒く霜枯れし、残念ながら、エノコログサは、全部、枯れてしまいました。

(M.M.)

No.52

展示室 飼育生物の話題

ピンク色のクビキリギス

「子どもがピンク色のバッタを捕まえました！」と電話をいただきました。「近くなので、持って行ったら飼ってもらえますか？」と続きました。前号でご紹介した青いアマガエルの時とほぼ同じやり取りです。当館ではよくあることです。もちろん受け入れることにしました。届いたのは、バッタではなくクビキリギス。鳴く虫のなかまです。ピンク色の個体は激レアというわけではありませんが、緑色の個体もセットでいただいて、もともと飼育していた褐色の個体と合わせて3色が揃いました。

ただ、成虫越冬するクビキリギスは、すぐ隙間に隠れてしまいます。あれこれ試して、紙を折って隠れ家を作ってみました。ここに居着くことはないのですが、朝、隙間からここに移動させると、その日はそのままいてくれます。色彩変異の個体は、展示の華ですね。



わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・絶滅危惧種スナヤツメの保全を考えるために、水路に網を入れました(9/5)。泥がたまった場所で、大きな幼魚を確認できました。暑さが和らいだら、環境を整えていこうと思います。

金子謙一(自然博物館)

- ・三角池の横の木の上から、ガサガサと音が聞こえてきました。しばらくするとその場所からサシバの幼鳥が飛び立ちました(9/12)。嘴で緑色のものを持っていて、木の梢にとまると食べ始めました。食べているのはおそらくハラビロカマキリで、翅がパラパラと落ちていました。
- ・ハンノキの幹で、ハラビロカマキリがアブラゼミを捕らえていました(9/26)。

稲村優一(自然博物館)

- ・小学生と自然観察をしました(10/12)。ジュズダマの茎にぴたっと縦に止まっているコバネイナゴは、なかなか見つけれないみたいでした。
- ・斜面林のすそ、園路のすぐそばでカシワバハグマが咲いていました(10/21)。林の秋の野草は、草刈りのタイミングで消えてしまったり、よく咲いたりします。紅葉のころのさっぱりした風景は、多くの野草の存在と引き換えの風景です。
- ・いつもキッコウハグマが咲く場所を見に行くと、アカネが茂って花が咲いていました(10/31)。アカネの花も大切ですが、その下にあるはずのキッコウハグマは今年は見えませんでした。

◆中山より

- ・小学校のプールにギンヤンマが来ていました(9/13)。雌雄がつながり、やがて水面で産卵行動を行っていました。水面に浮いて朽ちかけたアオギリの葉にとまっているように見えました。

◆坂川旧河口より

- ・タコノアシという名の植物を見ました(10/24)。もともと神出鬼没の植物ですが、坂川の旧河道の切れ目の、石を詰めたかごのところで全体が赤く色づき、タコの足のように実をつけた株を何本か見ました。

以上 金子謙一

◆江戸川放水路より

- ・ソリハシシギが干潟に降りて餌を探していました(9/2)。干潟を走り回って獲物を探すので、見ていてとても面白いです。小さなカニを捕まえているように見えました。
- ・江戸川放水路のカキ礁にミヤコドリが飛来していました(10/26)。カキ礁の上を歩いて、餌を探しているようでした。17個体観察できました。
- ・干潟には、トビハゼがたくさんいました(10/26)。今シーズン生まれた幼魚が、順調に育った印象です。トビハゼ護岸でも、かつてない数が見られました。

以上 稲村優一

酷暑の夏は、10月に入ってやっと最高気温が30度を下回るようになりました。台風などの直接の災害の無い夏でしたが、高温で市川特産の新高梨が大打撃を受けました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力していただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、大町公園の自然観察園のももとの呼び名です。

○長田谷津散策会(申し込み不要・荒天中止)

季節の風景や動植物を楽しみながら、ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか

(要問合せ・荒天中止)

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前12時

初参加の方は・・・お電話で博物館までお問合せください。

湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
12月	10日 日曜日	24日 日曜日
1月	14日 日曜日	28日 日曜日
2月	11日 日曜日	25日 日曜日
3月	10日 日曜日	24日 日曜日

臨時休館のお知らせ

令和6年2月6日(火)～9日(金)
展示室整備のため、臨時休館いたします。

なお、動植物園、自然観察園は
平常通り開園いたします。

第36巻 第5号 (通巻第209号)

令和5年12月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477